

薬物が若者の間で広がる中、多くの学校が予防教育に力を入れている。知識を教える教育だけでは現状を変えられないと、新たな

手法を探る教師も現れているほどだ。誘いに乗らない心を育てるための取り組みを追い掛けた。

若者の薬物依存

下 誘いに乗らない

授業で「断り方」を勉強

保護者も加わり予防教育

埼玉県川口市の十二月田指導する」と担当者。年に開くよう求めている。文部上がなにつれ、薬物への問た話から薬物は思ったより怖くないと考えているのではないかと分析する。

その上、今は薬物がインターネットや外国人の売人から簡単に買える。薬物依存者の社会復帰を支援する名古屋タルクの柴真也代表は「今後、若年層でも減らないのでは」とみる。それだけに、予防教育は一層重要だ。十二月田中の佐藤教諭は「三年間の学習で相手を思いやりながら、自分の考えを伝えられるようになる」と成果を語る。

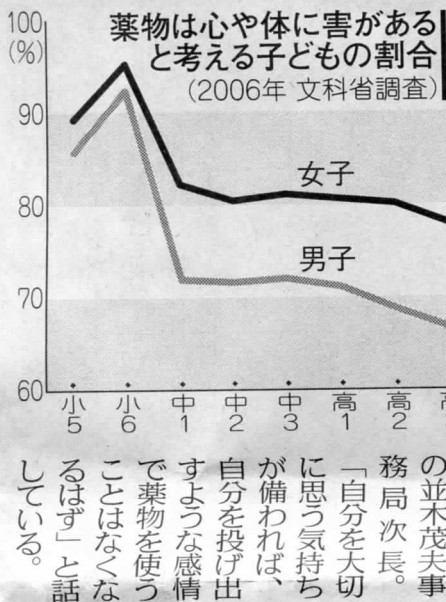
埼玉県川口市の十二月田指導する」と担当者。年に開くよう求めている。文部上がなにつれ、薬物への問た話から薬物は思ったより怖くないと考えているのではないかと分析する。

その上、今は薬物がインターネットや外国人の売人から簡単に買える。薬物依存者の社会復帰を支援する名古屋タルクの柴真也代表は「今後、若年層でも減らないのでは」とみる。それだけに、予防教育は一層重要だ。十二月田中の佐藤教諭は「三年間の学習で相手を思いやりながら、自分の考えを伝えられるようになる」と成果を語る。

誘われたとき、どつやっって断るかを考えて台本作りをし、ロールプレーをする。それだけでなく地域ぐるみで取り組むと、保護者にも一役買ってもらおう。

指導に当たる佐藤恵子教諭は「生徒が緊張感を持って学ぶように、また地域にもこの取り組みを理解してもらおう」と、この形を進めています」と話す。

名古屋市内の市立名東高校。年に二時間、授業で薬物について教える。教科書や国が配る冊子などを使い、「薬物にどんな種類があった、使ったらどうなるかを



ロールプレーをする生徒と保護者。誘い役は保護者が担当する。埼玉県川口市の十二月田中学校で(同校提供)

「参加型の授業が『自分にもできる』という自信につながり、子どもたちの心を育てる」と、校長として同校で指導した日本学校保健会(東京)の並木茂夫事務局長。

「自分を大切に思う気持ちが備われば、自分を投げ出すような感情で薬物を使うことはなくなるはず」と話している。